

議 事 録

- 1 会 議 名 第2回さぬき市学校再編計画検討委員会
- 2 日 時 平成24年10月1日（月）13時30分～15時45分
- 3 場 所 さぬき市津田支所2F第5・第6会議室
- 4 出席者 【委員】毛利委員 平野委員 大眉委員 松佐委員 名和委員
 大山委員 山下委員 三井委員 寒川委員 土佐委員
 山本委員 三木委員 本間委員
 【事務局】安藤教育長 穴吹教育総務課長 牟礼学校教育課長
 学校再編対策室 津田室長 真部副主幹 山田副主幹
 【傍聴】 0名
- 5 会議次第
- 1 開会
 - 2 委員長あいさつ
 - 3 前回の会議結果
 - 4 議事
 - (1) 生徒数・クラス数の現状について
 - (2) 財政状況について
 - (3) 学校施設の現状について
 - (4) 地域の現状について
 - (5) 通学区域の指定について
 - (6) 学校再編計画における後期計画期間の計画内容の見直しについて
 - (7) 再編シュミレーションについて
 - 5 次回の日程について
 - 6 閉会
- 6 会議内容

発言者	意見概要
(事務局)	定刻がきたので開会する。会議に先立ち、前回の会議に出席されていない委員（2名）の紹介をする。
(委員長)	委員長からあいさつをお願いするとともに、議事進行を学校再編計画検討委員会設置要綱第6条第1項の規定により委員長をお願いする。 前回の第1回の学校再編計画検討委員会では後期計画期間の計画内容の特に中学校に関して重点的に見直すことが認められた。中学校の再編を考えるに当たって様々な条件について検討していただきたい。 議事に入る前に、会議の公開、非公開について、会議は原則公開となっている。本日の会議は非公開とする事項が無いことから、公開ということ

	で進めるが異議はあるか。
(委員)	異議なし
(委員長)	本日の会議は公開とする。次に本日の会議の傍聴人について事務局から報告をお願いする。
(事務局)	本日の傍聴希望者は0名である。
(委員長)	もし途中で傍聴希望があれば、許可するが異議はないか。
(委員)	異議なし
(委員長)	途中から傍聴があれば許可する。前回の第1回の会議結果について事務局から報告をお願いする。
(事務局)	(資料の会議結果について事務局から説明)
(委員長)	前回の会議結果の報告が終わったが、質疑等はあるか。
(委員)	質疑は無し
(委員長)	質疑等無しであることから、前回の会議内容について承認いただいたものとする。それでは本日の議題に入る。なお、議題(1)～(5)までをまとめて事務局から説明をお願いする。
(事務局)	(議題(1)～(5)までを一括して説明)
(委員長)	以上で(1)～(5)までの現状及び課題等について、事務局の説明が終了した。
(委員)	学校建設費について、新設約2,600,000千円、耐震化は両校(津田・志度東中)を併せて、450,000千円ということだが、これの補助金はいくらになるか。また市の負担はいくらになるのか。
(事務局)	あくまでも概算の試算であるが、国の補助が1/2で、残りの1/2は、地方債、県補助及び一般財源となり、市の負担分は約3,250千円である。 また、耐震化については、緊急防災の関係事業の継続がなされたと仮定した場合、国から約66.7%程度、その残りは地方債及び一般財源で約26.5%程度となる。実質的な負担は、地方債を除き、約6.7%程度であると考えられる。しかしながら、補助の対象経費ということで、対象外経費は国庫補助が受けられないこととなり、あくまでも概算であって詳細は違ってくる。
(委員長)	新設の約2,600,000千円のうち半分が国からの補助。あと残りの1,300,000千円の45%が地方債ということであるから借金ということ。今すぐということはないが、今後付けを振り回すことになる。それから県の方からの補助3,250千円、市が負担する3,250千円、約半分の額が現在又は将来にわたって市の負担になってくる。耐震に関しては、国の補助が少し多くなり、66.7%という説明であった。それ以

(委員)	<p>外のもの補助の期待はできないと考えてよい。それで良いか。</p>
(委員長)	<p>わかりました。</p> <p>学校を取り巻く厳しい状況、いくつかの「待ったなし」があるが、財政の逼迫は、我々にとって「待ったなし」の状況かと思われる。それ以外に生徒数、子どもの数の減少などの少子化という「待ったなし」が迫っている。これは生徒を取り巻く環境、子どもたちの「育ち」の環境として、問題がある。もう一つは、耐震化である。子どもの安全に関わる「待ったなし」もある。大変厳しい状況の中で私たちは、これからの中学校再編を考えていかなければならない。</p>
(委員)	<p>通学区域の指定変更の表があるが、志度中学校が平成24年度18名と多くなっているが、もう少し詳しく知りたい。どの校区から志度中学校への通学を希望されているのか。その原因はどういうことなのか。さらに市外の高松北中学校にどのくらい生徒が通学しているのか。</p>
(委員長)	<p>志度中の18名については、どこから、なぜなのか。わかる範囲で説明をお願いします。</p>
(事務局)	<p>このことについて、どこからというデータは持っていないが、志度中学校が多い理由として、聞くところによると部活動で、他の中学校にはないサッカー部に入りたいという希望があってそのような状態になっている。また、高松北中学校への市外に出ている生徒に関しては想定していなかったのでデータの準備ができていない。</p>
(委員長)	<p>部活動でサッカーというと志度東中校区からになるのか。</p> <p>確かに通学している。志度東中からだけでなく通学、山手側の中学校からも通学している。</p> <p>そういう場合の指定変更は認められるのか。</p> <p>「変更について、個々の理由を総合的に判断し、教育的配慮をもって個別に」というが方針だが、部活動もそういう配慮になるのか。</p>
(事務局)	<p>指定変更の基準があり、その基準の判断理由の一つとなる。</p>
(委員)	<p>どういう方法で通学しているのか。自転車・JR・バスなのか。</p>
(事務局)	<p>そこまでは調査していない。保護者の送迎ではないかと思われる。</p>
(委員長)	<p>次回の会議までに調査をお願いしたい。18名の中身、どういう理由でどこからどのような交通手段で、わかる範囲で構わない。</p>
(委員)	<p>学校施設の状況及び課題について、普通教室の数は再編に関わってくるが、学校には理科室、音楽室、家庭科室等がある。各クラスが音楽室を1週間に何時間か使用すると思う。1つの音楽室で6時限×5日だから30時間しか音楽の時間は取れない。限界の数はどのあたりにあるのか。</p>
(事務局)	<p>教室数については、いわゆる特別活動教室も含み、特別教室の音楽室、</p>

<p>(委員)</p>	<p>理科室等は除いている。</p> <p>子どもたちが勉強する環境であることから、そこも考えなければならない。全体で20クラスの学校ができる。しかし、音楽室は1つしかない。では、どうするのかということになる。そうなる前に中学校の規模はここまでしかできないというものもある。音楽室は2つ、3つある。理科室も2つ、3つある。ところは良いが、各学校によっては、当然この中学校はこれだけのクラスしか認められない、できないというのがあると思う。それは示していただきたい。</p>
<p>(委員長)</p>	<p>週に音楽が2時間。15クラスであれば、30時間になる。施設のぎりぎりのところかと思われる。</p>
<p>(委員)</p>	<p>時間割を組むのもガチガチ。余裕を持たせてみるとしても2時間となる。いわゆる実技教科に関しては2時間。体育は少し多いけれどグラウンド、体育館等に分かれる。</p> <p>教室数については、学校現場に教室の限度数を確認し、現状を踏まえて、示していただきたい。</p>
<p>(委員)</p>	<p>新築にしても5年、改修にしても2年程度の時間を要するとなっている。津田中、志度東中にしても現在耐震化を実施されていない。地震はいつ来るかわからないが、耐震化するまでもなく、いざという時の手当、手段は考えているのか。</p>
<p>(委員長)</p>	<p>ソフト面では、避難訓練等を実施している。ハード面に関しては耐震基準を満たしている学校に移るか、今の学校を耐震化するか、新築するかの3つの選択肢、一番長く時間を要するのは、用地取得から新築するまでの5年、短いもので今の学校をそのまま耐震する場合と新たな再編で耐震基準を満たしている学校に移るかの2つが短い。子どもの安全に関わるが、保護者の気持ちとしては一刻も早くと思われている。</p>
<p>(委員)</p>	<p>文部科学省のホームページを見ていたら、「これからの課題は長寿命化と非構造部材」の記述があった。もちろん全体のガタガタというものもあるが、天井、照明器具、外壁材が大事であるということで文部科学省も検討を始めている。さぬき市の方では非構造部材の耐震化をどのように考えているのか。</p>
<p>(教育長)</p>	<p>東北大震災で非構造部材の未耐震化によって、多くのけが等した方もいる。蛍光灯が地震で落ちない、天井が落ちないようにすれば良いがその対応への経費の問題も生じる。文部科学省でもその辺りも検討していこうとしている。</p> <p>本市の幼小中の対策としては、当面まず、物が落下してこないところに逃げる、揺れているときは机の下に入る、ものが倒れてこないところに逃</p>

	<p>げるなどの訓練が必要である。</p> <p>2つの大震災でも躯体が崩れて命を落とした子どもはいなかった。耐震基準を満たしていない学校もあったかと思うが、あの震度に耐えたのである。同時に色々な物が落下して危険な目にあったが、普段の学校の防災に対する取り組みにより奇跡的に揺れで子どもが犠牲になったというのは聞いていない。ただ、津波による犠牲者がたくさん出た。被害の可能性を少なく抑えるための取り組みが学校で必要となってくる。</p>
(委員)	<p>津田中学校、志度東中学校が新設またはどこかと統合することになれば、津田、志度東中学校は廃校になる。市として廃校となった学校施設等は、市としての計画的な利活用や旧鶴羽小学校の今後はどうなるのかをお伺いしたい。市として廃校となった中学校はどのように利活用をどのように計画するのかをお伺いしたい。耐震大規模改修がなければ、新設、あるいは他の学校との再編であれば時間がかかる可能性がある。今の段階で何か計画があるか。</p>
(事務局)	<p>再編の枠組みを検討しているところである。ご存知のとおり耐震性が無い建物であり、現時点では跡地に関して全く決まっていない。</p>
(委員)	<p>廃校となった鶴羽小学校に関しても、計画は全くないのか。</p>
(事務局)	<p>一時的ではあるが、遺跡の調査で一部の教室を使用している。</p>
(委員)	<p>市の財政状況との問題もある。今後使用しなくなった学校施設は10年20年間そのままという可能性もあるのか。</p>
(事務局)	<p>そのような場合もある。</p>
(委員長)	<p>再編が決定しなければ動けないところもあるが、市の発展のために有効に検討していただきたい。検討委員会の進行に応じて跡地利用についても考えていきたい。</p>
(委員)	<p>学校再編に関係ないと思われるが、学校跡地、跡施設の利用について地域に意見を求めたのか。</p>
(教育長)	<p>地域の方には、様々な意見をお願いしている。末分校のように地域で活用していただければと考えるが、学校施設となると建物が非常に大きいことから、実際的に活用するとなれば難しい部分もあると思われる。</p>
(委員長)	<p>私たちが集まって議論しているが、少子化に歯止めがかかるような市の活性化につながる良い方法があればと思う。</p> <p>他にないか。(1)～(5)において、様々な学校再編を考えるにあたっての考慮すべき条件が示されたと思う。これが市の現状であり、課題が出てくると思うが、よろしければ次の(6)の方へ行きたいと思う。</p>
(委員)	<p>資料の8ページの図ですが、さぬき市は3つの中学校に収まると思われる。少子化になって経済が思わしくないからそういう方向になるのは</p>

<p>(委員長)</p>	<p>自然であると思われる。お金を色々と工面することにも限度がある。この地図を長尾中、さぬき南中、志度中を中心にこのような図を作成していただきたいと考えるがいかがか。</p> <p>現在、津田中学校を中心に直接距離 6 km の範囲を青く示し、志度東中学校を中心に直線距離 6 km の範囲を赤で示している。ご提案は、3つの中学校を志度、さぬき南、長尾中学校で 6 km の地図の資料がいただきたいとのことである。これからの学校再編を考えるに当たっての 1つの選択肢にもなる。</p> <p>この後、(6)・(7)の議題について、どのようなデータが必要なのか準備をお願いします。直線距離だけでなく、地形的に通学等も含めていくつかの再編のシュミレーションもある。</p>
<p>(委員)</p>	<p>峠があることから、直線での通学が困難である。保護者がこの図面によって通学路として可能な道路を選択し、何分ぐらいで通学可能かということを検討できる。</p>
<p>(委員長)</p>	<p>再編の 3つの学校という選択肢であるが、それについて、通学はどうか、校区はどうか、それ以外の再編シュミレーションがあれば、それに対しての校区はどうか、子どもたちの通学支援はどうか、検討していかなければならない。</p> <p>それでは(6)に入ってよいか。そちらに時間をかけたい。それでは、(6)について説明を事務局からお願いしたい。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>(6)の議題について事務局から説明)</p>
<p>(委員長)</p>	<p>事務局から、後期計画期間の計画内容で中学校の計画内容の見直しについて提案、説明があった。新設については津田中学校及び志度東中学校の新設については厳しいと分析されている。このまま津田中学校及び志度東中学校を耐震、大規模改修することについては、結局少子化の問題について、先送りすることが教育環境についてどうかという分析がある。後期計画の中でどういう風な新たな再編をしていくのか、これから考えていかなければならないと思う。先ほどの説明について、委員からの御意見等をいただきたい。</p>
<p>(委員)</p>	<p>先ほどの説明、提案は、津田中学校をさぬき南中学校へ再編し、志度東中学校を志度中学校に再編するように思える。それも 1つの選択肢であると考え。この検討委員会に参加するに当たって、1回目の会議終了後、津田中学校の P T A の本部役員と意見交換した際に、「教育委員会の考え方になるのではないか。」という意見もあり、一方で津田中学校を存続させて小中一貫校の学校で運営できないかという意見もあった。小規模校で小中一貫校によって学力を上げる、豊かな心を育むことなどがあると思わ</p>

	<p>れるが、適正規模、大規模によるメリット、デメリット、また小規模のメリット、デメリットや小中一貫は学習上なのか、それとも施設の一環なのかはわからないので、それぞれのメリットが明確になった方が検討しやすいと思われる。前回の資料にもある程度のメリット、デメリットが書かれているが、前期の検討委員会でも議論になったと思われるが、その比較などがあれば検討しやすいと思われる。</p>
<p>(委員長)</p>	<p>この検討委員会の前の平成18年に組織された検討委員会の中でも学校の適正規模については議論がなされていると考える。小規模校と中規模校のメリット、デメリットなど比較された表があると思われる。再度確認する意味で次回、または簡単に説明ができるのであれば、説明をお願いしたい。1つの選択肢として委員が言われた津田中学校とさぬき南中学校との再編、志度東中学校の全て又は一部かはわからないが、志度中学校との再編というのも1つの選択肢である。それ以外にも津田中学校校区を小中学校一貫という考え方もあることから、検討する材料として学校規模のメリット、デメリットを再度示していただきたい。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>今、説明できるところはあるか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>準備していない。</p>
<p>(教育長)</p>	<p>子どもの精神的な発達をみると、中学校というのは12～13歳からだんだんと友達との人間関係が必要になってくる。1つの目的に向かって互いが協力したり、切磋琢磨したりして部活動を実践することによって、子どもの精神的な成長が保障される。という面が多分にあると思われる。そのようなことを考えると小規模では十分なことができなくなる。</p>
<p>(委員)</p>	<p>部活動に関しては、大川第一・天王中学校からサッカーがしたいとのことで津田中学校に通学しているが、例えばこの学校はこの部活、この中学校はこの部活などそれぞれ派遣、部活を行き来するのはどうか。</p>
<p>(教育長)</p>	<p>津田中学校へ大川第一中学校から通っている生徒がいる。帰宅中に会うと部活が終了して自転車で約20～30分程度、自宅まで時間がかかり、帰りはクタクタになっている。</p>
<p>(委員長)</p>	<p>この問題は、再編を考えると通学の安全とかをどう考えていくのかとのテーマと結びついてきて、先ほどの委員が言われた3校案が出た。この後、各委員からシュミレーションを宿題とするが、メリット、デメリットも考えていただきたい。それを考えるためにも通学の問題、校区の問題など非常に大きいと思われる。それを考えるための材料、データを次回提出していただきたい。スケールメリット、デメリットとしては部活の問題は確かに大きいと考える。</p>
<p>(委員)</p>	<p>津田中学校がさぬき南中学校と、志度東中学校が志度中学校と再編する</p>

	<p>場合、もちろん教室が足りないといこともあると思われるが、最短ならいつから再編できるのか。</p>
(委員長)	<p>前回の時も地域で協議会を設置し、納得していただけるまで準備期間をとった。</p>
(事務局)	<p>早めに方向性を決定し、PTA等の承諾をもらうことが必要である。 先ほど委員の御意見にもありましたように、PTAへの説明、学校への説明、議会、地域の方への説明等から鑑みると、スムーズに説明し理解をしていただければ、最短で平成26年は可能ではないかと考える。</p>
(委員)	<p>了解した。</p>
(委員長)	<p>そのまま学校を耐震化すれば2年はかかる。今の最短で26年。ほぼ同じか1年早いぐらいである。</p>
(委員)	<p>耐震化や新築をしないのであれば、建設費が浮くことからそのお金を通学支援に利用していただきたい。</p>
(委員長)	<p>通学支援に関してもお金が絡むことなので、(6)については平成20年の段階での後期、新設案は選択肢としては外れるようなご提案と私は認めている。(1)から(6)までの様々な条件を考えると、津田中学校及び志度東中学校の用地買収から始まるものは厳しいと考える。小中一貫、小中高かもしれないが、そういうものも選択肢1つに入れつつ新しい再編シュミレートする方向で、共通理解や合意ができたので、(7)に示された内容に進んでよろしいか。</p>
(委員)	<p>確かによくわかる。ただ、反対ではないが、資料の中の耐震化に係る経費について、工事費だけを記載すると膨大な金額と捉えられる。先ほど説明のあった市の負担率6.7%という数字の記載があれば、読んだ人の見方が変わってくるかもしれない。</p> <p>香川独自の教育体制という言葉が良く出てくるが、果たして効果があるのかどうか検証されていない。効果があるのであれば継続する必要がある。効果を検証した上で、香川型指導体制の実施をお願いしたい。</p>
(委員長)	<p>香川型指導体制、あるいは少人数の指導についてその効果というものは、香川型指導体制を実施しているから効果が無いとは言えないところはある。県は効果があるということで調査報告書を出す。県は香川型指導体制、少人数指導を推進してきた。同時に先生方も退職期を迎えており、新任の先生が採用されるようになってきている。そういう流れの中で、これまでの県が進めてきた教育施策に対して、再編等により特別教室、少人数教室は確保できなくなることは、さぬき市と県との間で協議されることになると思われる。その辺りについても次回説明していただければと考える。</p>

(委員)	志度東中学校は志度中学校と一緒にそうなので、志度中学校側の事情をよく聞き、とにかく放り込んで1クラスの人数が多くなった時の条件の切り下げがある。ソフト面を考えていただきたい。
(委員長)	大事なことである。教育環境を良くするために統合したが、逆に悪くなったのでは納得がいかない。この件について至急に取り組んでいただきたい。それでは、(7)の方に進ませていただきたい。
(事務局)	(資料に基づき説明)
(委員長)	資料には、いくつかの生徒数や統合中学校のシュミレーションが示されている。津田中学校と志度東中学校の新設シュミレーション。津田中学校とさぬき南中学校のシュミレーション。志度東中学校と志度中学校の再編の場合においては、鴨部地区の通学距離を勘案しての2つのシュミレーション。これら以外での再編のシュミレーションは考えられる。これにそれぞれのメリット・デメリットが考えられる。委員の皆さんの考えを出せるものを出していただき、選択肢として可能なものを出していただいて次回の会議で検討するのが趣旨であるとする。
(委員)	鴨部地区については、地形の問題等やどちらが通学が近いかというものがあるが、小学校で同じ中学校に上がれないというのがある。
(委員)	中央・小田・鴨部小学校が1つになろうとしている中で、中学校になって別れようとしている。
(委員長)	統合小学校と中学校の接続の問題があり、これも含めてメリット・デメリットの中に入れていただきたい。
(委員)	子どもが少なくなったから、少年野球も中央・小田・鴨部で1つになった。その子どもたちが全員そろって志度東中学校に行くとは限らない。傾向として高松北中学校へ行く子が幾人かはいる。そのようなことを規制はできないのか。
(委員)	再編案を提出するのは、委員個人の考えで良いのか。
(委員長)	個人の責任で取るのが一番良いと思われる。誰がそう言ったというのではなく、ここで地域の代表としてあまり制約されずに自由に検討するのが一番良いと思われる。検討委員会での結論が出た際には、地域の意見、それぞれの段階の意見を聴取する機会があると思われるので、今回は個人の意見として提出をお願いします。
(委員)	津田中学校が現在建設中のさぬき南中学校と再編するシュミレーションがあるが、クラスが増えることになるが受け入れは可能か。志度東中学校が志度中学校と再編となった場合もクラスが増加すると思われるが受け入れは可能か。
(委員長)	資料の中の教室数から言うと、普通教室は足りる。シュミレーションで

	<p>1 学年5クラスとなると思うが、問題はそのことによる特別教室、少人数教室が確保できなくなるのが、香川型指導體制の少人数重視について説明ができるかと思う。事務局から説明をお願いする。</p>
(事務局)	<p>特別活動教室は、余裕教室と捉えている。もともと普通教室であったが、生徒数の減少により余裕のある教室を特別活動教室として目的、教室の中を変更して利用されている教室であると考えている。</p>
(委員)	<p>さぬき南中学校が完成し、津田中学校が再編となった場合には、特別活動教室を工夫して津田中学校が入らないといけないということか。</p>
(委員長)	<p>構造自体は変わらない。 次回の会議までに調査をお願いしたい。 大丈夫かどうか併せてお願いしたい。</p>
(委員)	<p>再編したが、特別教室だったのが違うのはいけない。</p>
(事務局)	<p>さぬき南中学校の場合は、各学年の普通教室が3教室、プラス特別活動教室が各学年1クラスの4クラスだから、津田中学校が入った場合に各学年ごとに少人数級が2つはある。そのうちの1つの教室について、普通教室に変更すれば、大丈夫だと考える。</p>
(委員)	<p>再編のシュミレーションの表の作成について、単に全校生徒を40人で割る、35人で割るという風にやっているのではないか。現実的な数字を捉えていただかないと、実際のクラス数にすると1クラス、2クラス多くなることになる。</p>
(委員長)	<p>これはおおよそでは済まない問題である。</p>
(委員)	<p>当初の予定であったようにさぬき南中学校と志度東・津田中学校の統合中学校ができるようになっていて、津田中学校と志度東中学校は統合する流れだと思っていたが、この資料を見て結局予算的な背景で難しくなっている。</p>
(委員長)	<p>計画時の予想よりも更に少子化の進展しており、津田中学校と志度東中学校を統合しても、将来的に適正規模にならない。</p>
(委員)	<p>先に津田中学校と志度東中学校が統合したら、大川第一・天王中学校は、今の津田、志度東中学校のようにどちらかへの統合となっていたか。津田中学校と志度東中学校が残ったから、こんなことになったのではないか。財政的な理由からどちらかに統合することになるのか。無いものは仕方が無いが、そういう風にしか聞かえない。保護者やPTAに説明に行かなければならないが、あとからお金が無くなったので、どちらかに統合すると言えない。</p>
(委員)	<p>最初に3校案と打ち出していれば、もっと状況は変わっていると思われる。4校案が3校案になろうとしているから矛盾が出てくるのではない</p>

	か。
(委員)	3校案で、もし津田中学校をさぬき南中学校に再編するのであれば、新設の校舎にも津田中学校案があったと思われる。今更言っても仕方が無いが。
(委員)	通学支援であるスクールバスの件も検討しなければならない。
(委員長)	平成18年にスタートした第1回の検討委員会で3校案、4校案の両方あったと思うが、やはり大胆な統合案は多くの批判、抵抗があった中で、見通しが分からなかった部分もあったのかもしれない。誰もここまで少子化が進展すると予測できなかったと思われる。
(委員)	この資料は、PTA役員に公開はしても良いか。それとも非公開か。
(委員長)	ホームページ等で会議録は出すのか。
(事務局)	当然のことながら、議事録は公表する。資料はホームページには掲載しない。
(委員長)	事務局で学校再編のホームページのところで第2回検討委員会資料という形で公開しまえば個々に出さなくて済むのではないか。
(委員)	中学校6km以上の範囲は通学支援があるということか。通学支援はバスか。
(委員長)	バスである。バス以外の通学支援の方法もあるかもしれない。6kmというのも機械的であるが、峠を越えるなどの条件もある。
(委員)	実距離が6kmということか。
(委員長)	見やすく表現をしている。
(教育長)	さぬき南中学校の通学支援方法について詳しく、事務局から説明をお願いします。
(事務局)	さぬき南中学校の通学支援は、学校再編計画に基づいて実距離6kmとし、対象地区エリアを選び、各家庭からではなく、行政区で6kmの有無で判断している。
(委員長)	他に御意見、質疑はないか。
(委員)	さぬき市では、中学校を指定せず選択制を持たせるような制度は考えられないか。この中学校は学習に特化している、また主に部活動に力を注いでいるなどの特色を持った中学校は考えられないか。
(教育長)	東京の世田谷区で現在自由校区ということで実施しているケースもある。それについては問題が生じて新聞を賑わしている。そのことを十分に踏まえ、検討する必要がある、一度そのような制度に取り組むと、やり直すに大変なエネルギーが必要である。
(委員長)	最後に次回の会議日程について、事務局からお願いします。
(事務局)	次回の日程について説明し、調整したうえで連絡することとしたい。

(委員長)	閉会にあたり、副委員長からあいさつをお願いします。
(副委員長)	本日は長時間に渡って審議いただきお疲れ様でした。概ねの方向性が定まりつつある。
(委員長)	以上で第2回さぬき市学校再編計画検討委員会を閉会する。
<閉会 15:45>	